事業所健診と情報の活用

(財) 郡山市健康振興財団健康センター 宗像 ゆかり、潜水 美樹、高橋 正宏

1. はじめに

当施設では、就労者を対象とする事業所健診を行っている。健診業務の効率化と、より 充実した保健サービスを提供して疾病の予防に寄与する為に『事業所健診情報システム』 を開発してきた。東海大学医学部医学情報学教室との共同開発として平成2年より開始し、 結果出力(H2~)集計機能(H3~)保健指導(H4~)フォローアップシステム(H5~)等、 徐々に機能を追加している。今回は、本システムの活用状況を紹介し、有効性と課題について保健婦の立場から発表する。

2. 保健指導

2-1. 保健指導画面

健康診断当日に保健婦がノート型パソコンで個別指導を行う。その際に使用する保健指導画面は『データ』『時系列グラフ』『レーダーチャート』の3種類があり、受診者の過去の全受診データが登録されている。

図1 レーダーチャート

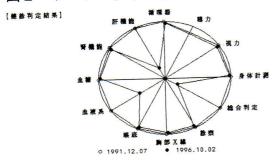
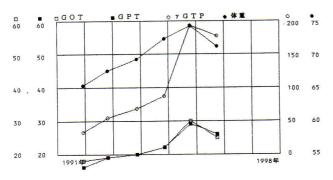


図2 時系列グラフ



2-2. 受診者へのアンケート結果

表1			
時系列グラフへの関心			
関心あり	63	(95.	5)
関心なし	3	(4.	5)
保健指導の受け止め方			
肯定的	62	(94.	0)
否定的	2	(3.	0)
どちらでもない	2	(3.	0)
指導後の行動変容			
変化あり	41	(62.	1)
変化なし	25	(37.	9)
行動変容の継続性			
継続	30	(73.	2)
中断	5	(12.	2)
無記入	6	(14.	6)
	人数	(%)	

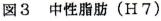
受診者の反応を確認する為に郵送によるアンケート調査を実施した。その結果、95.5%の人が自分の検査データに関心を持ち、94%が保健指導を積極的に受け入れていた。更に、健診後にライフスタイルを改善しようと試みた人は62.1%に昇る。(表1)健診の結果をグラフ等の経過のわかりやすい形で表示する事が、受診者の気づきにつながっているようだ。

当施設での保健指導時の問題点は、血液検査の結果が判明するのが午後になるのでリアルタイムでデータの説明ができない事である。これを補う為に要医療者へは時系列グラフとコメントを作成し、書面による指導を行っている。更にはノートパソコンを持参して 『訪問指導』も可能であるが現在要請は無く、今後の課題となっている。

3. 各種集計

様々な集計機能によって報告業務の簡略化や問題点の抽出が可能となる。

下記のグラフは、中性脂肪とγーGTPについて男女別年代別に異常者の割合を表した ものである。(図3、4) これらは男女差が著明で、しかも55才以降に異常者の割合が 減少している。このことから飲酒や外食など働き盛りのサラリーマンの日常生活が原因と 考えられる。



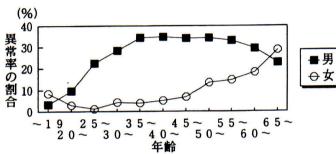
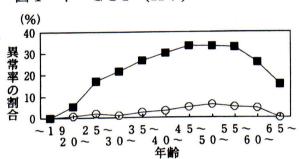
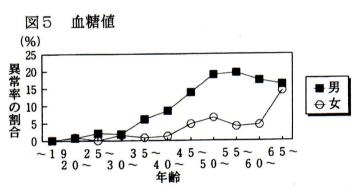


図4 Y-GTP (H7)





血糖値も中性脂肪や γ - GTPと同様に男性の方が異常率が高い。しかし女性でも年齢と共に異常者の増加が見られ男女共通の健康問題といえる。異常率が上昇するのは男性の35才以降であり、青年層からの早期の対策が必要である。(図5)

肥満度でも男女で異なる傾向が見られる。男性では10代以外は肥りすぎが多く、女性では肥りすぎとやせすぎの逆転する年齢が高い。女性は体型に対する意識やライフサイクルの変化に伴う影響も大きいと考えられる。(図6、7)

図6 男性の肥満度(H7)

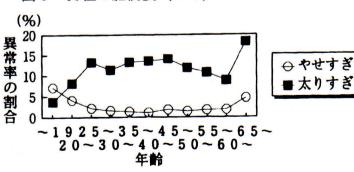
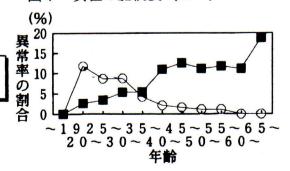


図7 女性の肥満度(H7)



4. フォローアップ

健康診断はスクリーニングであり、異常が出た場合には医療機関を受診することが大切 である。しかし受診者には精密検査を受けない人が多く、医療へどう結びつけるかが大き な問題となっている。

4-1. フォローアップシステム

精密検査の受診状況の一覧票や、各課別紹介状と受診勧奨の手紙を自動出力し、精密検 査を受けない方へフォローを行っている。結果報告書を通し、書面により医療機関との連 携を図っている。

4-2. 精密検査を決定する要因の分析

精密検査の受診に対し有効な保健活動を展開する為に、精密検査を受ける・受けないを 左右する要因について統計処理を行った。

対象: H7年度の事業所健診受診者で要医療と判定された1925名

方法: 間診票や検査結果より精密検査を受けた群と受けない群について、ライフスタイル

や職場環境等20項目について差があるかどうか、比較した。

結果:以下の15項目で有意差が認められ、特に〇の項目は関連が深いことがわかった。

(第55日本公衆衛生学会発表)

精密検査を受けないグループは以下の特徴がある。

・男性

欠食がある

〇喫煙者

・手術の経験がない

• 飲酒者

○既往症又は治療中の病気がない

・20~30代の青年層

・自覚症状がない

・高脂血症

〇公務員以外

○前回の判定も要医療

- ・要医療項目が多い
- ・事業所支店規模が大きい ・時系列グラフやコメントを送らなかった人

・事業所全体規模が小さい

5. まとめ

データベースを活用してどう分析し、事業を展開して住民に還元するか、私たち職員の 責任を感じている。健診事業の更なる効率化と充実の為に、今後もシステムの開発を進め ていきたい。現在は当施設内のみの使用であるが、行政や他の医療機関とも共用できるネ ットワーク作りがされれば、住民の健康管理に大きく貢献するものと考える。